

Challenge Road



学校法人 トヨタ整備学園

トヨタ名古屋自動車大学校

〒452-8567 愛知県清須市春日一番割1番地

TEL: 052-400-3611 FAX: 052-400-3615

発行: 同窓会事務局

URL <https://ssl.toyota-tcn.ac.jp/> E-mail dosokai.nagoya@toyota-mec.ac.jp

Vol.27



目次 Contents

昨年に続き
2連覇を達成!

1

同窓生Close up! 2~4

株式会社昭和電業社 代表取締役
多和 正博さん

トヨタ自動車株式会社 東北分室
岩切 京亮さん

トヨタカローラネット岐阜株式会社
山口 美穂さん

新明工業株式会社
ルイテル ウダヤ プラサドさん

神奈川トヨタ自動車株式会社
チョウ シンホンさん

先生now 5

令和6年度トピックス 5・6

各種ご案内 6



第5回大会を迎えたトヨタ3校整備コンテストが、11月17日に神戸校で開催されました。トヨタ販売店から出向されている先生方のご指導の下、見事、名古屋校のチームが優勝し、昨年に続き2連覇を果たすという、たいへん光栄な結果をいただくことができました!

競技は、各校から3チーム、1チーム3名の計9チームで行いました。「12ヶ月点検作業の抜粋とご用命事項の対応」、そして、「灯火パネルを用いたトラブルシュート」を競技内容とし、安全と正確な作業を重視しました。

学生たちは9月からの約2ヶ月間、授業

終了後に集まり、日々練習を積み重ね、着実にレベルアップしていき、今回の結果へと結び付けました。学生たちの努力やコンテストへの想いが評価されたことを嬉しく思います。

第6回大会は、2025年11月16日に東京校で開催予定です。1チーム2名とし、競技内容は「12ヶ月点検作業の抜粋とご用命事項の対応」のみとなります。2年生の中から選拔し、例年と同様、2ヶ月間の練習を予定しています。過去2年の経験を活かし、良い練習を積み重ねて3連覇を目指し頑張ります! 引き続き応援をよろしくお願いします。

Close up! 同窓生

様々な分野で活躍する同窓生の皆様をご紹介します。



真早美夫人と一緒に!

株式会社昭和電業社 代表取締役

Masahiro Tawa

多和 正博さん

(1985年度 高等科卒)

父の教えと「縁」に導かれ、創業90余年
自走する社員を育て、さらなる高みへ

私は長男ですが、父から家業を継ぐよう言われたことは一度もありませんでした。漠然と母方が営んでいた飲食業を継ぐか、海外に出るか考えていた私に、父が「相談に乗ってくれるから」とデンソーの幹部に会わせてくれました。その方に将来を尋ねられ、意向を伝えると「甘い!」と一蹴され、まさかの説教です(笑)。そこで勧められたのが、中部日本自動車整備専門学校(本校の旧称)でした。

学校生活は楽しくも、規律を重んじる校風でした。学業イコール仕事と指導され、遅刻すれば点数が引かれました。寮は点呼や消灯があり、軍隊のようでしたよ(笑)。今となっては笑い話ですが、あの厳しい環境で必死に食らいつき、精神面を鍛えられたからこそ、父が急逝し31歳で会社を継ぐことになった時も、前に進むことができました。おかげさまで、今年創業94年を迎えます。

先生が当時、「自動車業界に身を置くな、この学校の出身者であることが必ず役に立つ」と当時おっしゃっていましたが、言葉通りだと実感しています。取引先には同窓生がおり、私自身、整備士の資格を取得したことが事業を営む上で大きな力となりました。これもまた「縁」の一つですが、当社が「デンソーダイアグステーション」の認定を受けることができたのは、本校の後輩でもある社員がデンソーダイアグマイスターの資格を持っていたからこそです。今後は指定工場となり、ワンストップでサービスを提供できる会社になりたいですね。

また、「自走する社員」の育成にも取り組んでいます。研修を定期的に行い、組織体制も従来のピラミッド型から、よりフラットなアメーバ型へと移行しました。プロジェクトごとにメンバーが集まり、ディスカッション

を重ねながらそれぞれの意欲を引き出すチーム作りを推進しています。社員の平均年齢は31歳と若いですが、高い定着率を誇っています。これは、キャリアコンサルタントの資格を持つ私の妻が社員一人ひとりの悩みに寄り添い、支えてくれているおかげだと感謝しています。

在学生や新社会人の皆さんに私が伝えたいのは、「簡単に諦めない」ことです。信念を持って努力すれば、必ず結果につながります。たとえ思い描いた通りではなくても、別の形で実を結ぶでしょう。もっと言えば、目の前の問題から逃げても、いつか同じような壁にぶつかります。それならば、困難に直面した時に臆せず立ち向かった方がいい。乗り越えてしまえば、大したことはなかったと思えるはずですから。私も父の死という深い悲しみを経験しましたが、あの時、前を向いて行動したからこそ、今があります。結局、物事をどう捉え、どう動くかは自分次第。これからも、父の口癖だった「なせば成る なさねば成らぬ何事も 成らぬは人のなさぬなりけり」を座右の銘に、邁進し続けます。



クローズアップ! Close up! 同窓生

様々な分野で活躍する同窓生の皆様をご紹介します。

基礎力が成長を支え 楽しむ心が学びを広げる

幼い頃から機械いじりが好きで、高校は自動車科へ進学しました。卒業後は「もっと深く学びたい」と、本校への入学を決意。本校の設備のクオリティは桁違いで、専用のエンジン台や精密な模型など、充実した教材と講義のおかげで非常に理解が進みました。現在、私は「高難易度故障診断」を担当しています。電子化の時代とはいえ、車の本質的な構造は変わりません。本校で徹底的に学んだ基礎・基本が、今の診断業務に大いに役立っています。

仕事の醍醐味は、販売店様から「ありがとう」と感謝される瞬間です。販売店様では特定できなかった不具合の原因を、私たちが突き止め修復することで、販売店様もお客様も満足される。この達成感は格別です。心掛けているのは、お客様の視点に立つこと。設計側が「当たり前」と判断するような異音でも、お客様にとって不快であれば、それを解消することが最優先。この意識が修理の質を左右します。

学びにおいては「楽しむ気持ち」が大切です。学生時代を振り返ると、アメリカのNASCARレース参戦と学生フォーミュラの活動がとくに印象に残っています。「好きこそものの…」とこのことわざがあるように、夢中になることが成長

への第一歩。後輩の皆さんには、どんなことでも楽しみながら、あるいは自ら面白さを見出して、積極的に挑戦してほしいですね。



2018年全国学生フォーミュラ大会、
岩切さん前列右から2番目

トヨタ自動車株式会社 カスタマーファースト推進本部
サービス部 市場品質室 東北G 東北分室
岩切 京亮さん
Kyosuke Iwakiri (2018年度 高度自動車科卒)

聞くことから始まる信頼関係 カーライフを超え、「頼られる存在」へ

我が家では、両親が「あの車、カッコいいね」といった会話を普段から交わしていました。そうした影響もあって私も車が好きになり、本校に入学しました。

学校は予想以上にメカニカルな授業が多く、ショールームスタッフ科ながら整備士3級を取得。車の知識があるからこそ、お客様が何を求めているのか、より深く、的確に理解できるようになりました。敬語の使い方など、働く上で基本となるスキルをしっかり教えていただいたことも感謝しています。とくに言葉遣いは指導を通じてその重要性を認識し、疑問に感じたことはすぐ確認する習慣が身に付きました。これらの学びは、受付や電話対応、書類整理といった日々の業務に生かされています。

入社して11年、お客様に顔と名前を覚えていただけることが一番の喜びです。常に心がけているのは笑顔と傾聴。急な来店でも、まずはお客様の話を最後まで丁寧に伺い、対応が難しい場合は代替案をお伝えするようにしています。また、お客様のご要望を最優先にしつつ、エンジニアの負担も考慮に入れ、双方が納得し、満足のいく形で進められるよう努めています。

目標は、車以外のことで「相談したい」と思っている存在になること。お客様に寄り添う姿勢を忘れずに、大好きなこの仕事をこれからも続けていきたいです。

トヨタカローラネット岐阜株式会社
サービススタッフ
山口 美穂さん(旧姓永井)
Miho Yamaguchi (2013年度 ショールームスタッフ科卒)



クラス写真、山口さん2列目左から3番目



クローズアップ! Close up! 同窓生

様々な分野で活躍する同窓生の皆様をご紹介します。

レジェンドの境地へ—— 生涯をかけて、整備の道を極めたい

私が7歳のころ、ドライブ中に車が故障しました。その時、車を直してくれた整備士の姿がとてまかつよく、「自分も車を直し、困っている人を助けたい」と思ったのが、この道を志したきっかけです。高校卒業後、「安全性」への信頼と、トヨタ、スズキ、ホンダといった自動車メーカーへの憧れを胸に、ネパールから来日しました。トヨタ名古屋自動車大学の指導は手厚く実践的で、修理書の読み方一つとっても、今の仕事にとても役立っています。

入社当初は先輩に付いて車検や点検を行っていましたが、今では重整備を一人で任されるようになりました。指示を待つのではなく常に先を読み、わからないことは積極的に質問します。親身に教えてくれる先輩方ばかりで、充実した毎日です。

やりがいを感じるのは、止まっていた車が息を吹き返し、お客様に喜んでいただけた時。メーカー、新旧を問わず幅広い車種に対応しているため、他社で修理を断られ続け、最後の望みをかけてやって来るお客様もいらっしゃいます。職場には定年後も現役で活躍するベテラン整備士が



在籍しており、最高齢は86歳。彼らが語る昔の車の話はどれも興味深く、知識を深める貴重な機会となっています。いつか私も彼らのような“レジェンド”の域に達するのが夢。体が動く限り、整備一筋で走り続けます。



新明工業株式会社

ルイテル ウダヤ プラサドさん

(2023年度 国際自動車整備科卒)

“成長”を原動力に 「検査員」への道を加速中!

アニメ「頭文字(イニシャル)D」を見て、車の精密なデザインや構造、そして人類の英知が詰まった機械としての魅力に深く引き込まれました。中国から来日したのは5年前。本校は最新車種を用いた実践的な学習環境が整っており、自分を最も成長させてくれるに違いないと、入学を決めました。

入社1年目の現在、主な業務は車検で、1日に5～6台を担当しています。学校で培った知識と技術のおかげで、現場作業にスムーズに対応できました。とりわけ、4S(整理・整頓・清掃・清潔)といった仕事の基本姿勢や習慣が身に付いていたことは、私にとってかけがえのない財産であり、強みになりました。

整備士はいわば「車のお医者さん」。不調を抱えた車が元気を取り戻すと、大きなやりがいを感じます。また、例えばタイヤ交換にかかる時間が半分になるなど、日々の業務を通じて自身の成長を実感しており、これまで仕事をつらと思ったことは一度もありません。できることが増えるたびに、次のチャレンジへの期待に胸が膨らみます。先日、トヨタサービス技術検定2級に合格しました。将来は「検査員」をめざしており、次の目標は1級合格です。

後輩の皆さんには「車が好き」という初心を忘れず、自分たちが自動車業界を牽引し、前進させる気概を持って取り組んでほしいですね。応援しています!



職場の皆さんと
チョウさん
前列右から2番目



神奈川トヨタ自動車株式会社

チョウ シンホンさん

(2023年度 国際自動車整備科卒)

先生 now!

トヨタ名古屋自動車大学の先生をご紹介します。

教育部 第一教務室

おお はし のぼる

大橋 登先生



皆様、お元気になっていらっしゃいますか。私は昨年度から15年ぶりに教壇に立って教科を担当しております。久しぶりの授業で戸惑っている中、復帰2年目の今年度の担当教科は何だと思いませんか? なーんと、「電装IC」という以前の「電子教科」です。まったくイメージないですね。それもそのはず、入社以来初めて受け持つ教科で、どのように教えたらいのか試行錯誤しながら悪戦苦闘しています。その一方で、学生から若さと元気のエネルギーを受けて楽しく授業をしています(理解しやすいかどうかは不明ですが)。細かい物が見つらいお年頃ですので、作業は指先の勘に頼ることが多くなってきましたが、気持ちだけはいつまでも若くいたいものです。

『考える力』と『成し遂げるバイタリティ』で頑張っています。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

2024

令和6年度トピックス

TOPICS

入学式

4月9日に入学式が執り行われました。高度自動車工学科112名、自動車整備科107名、国際自動車整備科133名、高度自動車工学科編入生33名、車体整備専攻科15名、車体整備研究科10名の合計410名を迎えました。



高等科6期生同窓会



5月11日、高等科6期生(1983年度卒)の同窓生が還暦を機に、卒業以来の同窓会を開催しました。初日の午後、当校に集合して、現在の学校を見学していただきました。(写真は宴会宿泊先旅館前)



レースメカ体験



5月31日～6月2日、スーパーGTのメカ体験に参加し、また12月6日～8日には、台風の影響で延期された最終戦、鈴鹿大会にも参加しました。レースメカニックに必要な知識や技術を間近で見ることや、ボデー、タイヤホイールの清掃などを行い、普段はできない貴重な経験をしました。9月27日～29日には初めてスーパー耐久のメカ体験をしました。



カナダ留学



7月21日～8月11日の3週間、コロナ禍を経て4年ぶりにカナダ留学が催行されました。名古屋校から11名、東京校から1名の合計12名の参加でした。カナダの快適な気候の下、皆貴重な経験をしてきました!



学生フォーミュラ



今回から会場をAichi Sky Expoに移し、9月に学生フォーミュラが開催されました。総合成績は32位、2年ぶりに全種目完走を果たしました。大会中にトラブルが発生し、走行するだけで精いっぱい状況でしたが、学生たちの強い思いにより最後まで走りきることができました。

実習用カーリフト更新



1990年に春日に移転して以来、検査教科の授業で使用してきた実習場のカーリフトを更新しました。検査授業用20台、バッテリーEV用2台、外部講習用6台の計28台が新たに稼働を開始しました。

学園祭



11月2・3日の2日間、学園祭が開催されました。今年は一般の来場者もお迎えし、いよいよコロナ禍前の状態に戻り開催できました。当日はキッチンカーに加え、国際自動車整備科の学生によるベトナムとネパールの郷土料理もふるまわれました。

卒研発表会(ショールームスタッフ科・車体整備研究科・専攻科)



2月13日に車体整備専攻科とショールームスタッフ科の卒業研究発表会が開催されました。車体整備専攻科は1986年式MR2(AW11)のレストアについて、また今年で最後の卒業生となるショールームスタッフ科は3チームが就職後の販売会社様で役に立つ内容についてそれぞれ発表しました。

先輩からの応援メッセージ



3月4日、販売会社様から出向いただいた3名の先輩方により、卒業を控えた学生に「先輩からの応援メッセージ」として、校内WEB配信による講演会が開催されました。また最後には、同窓会長の村井様からもビデオによるメッセージでエールを送っていただきました。

卒業式



3月19日に、卒業式が執り行われ、高度自動車工学科89名、自動車整備科121名、国際自動車整備科63名、車体整備研究科10名、車体整備専攻科15名、ショールームスタッフ科13名が無事卒業しました。ショールームスタッフ科は13期まで続きましたが、今年度で廃止されるため、最後の卒業生となりました。

「就職応援窓口」

就職相談はこちらから可能です。困った時、相談したい時にもご連絡ください。

メール：dosokai.nagoya@toyota-mec.ac.jp

LINE：QRコードから登録



退職された先生

教育部 和田 孝二先生、
教育部 岡本 真城先生、
教育部 小野 功先生、お疲れ様でした。

ナゴタイムズYoutube

当校のYouTubeチャンネル「ナゴタイムズ」です。
ぜひ見てください！



ご感想・投稿記事などございましたら、ご連絡ください

入学希望者をご紹介します

入学を希望される方のご紹介につきましては、「同窓会親族優遇制度」、「同窓会受験生紹介制度」をご利用ください。応募方法等の詳細につきましては、学校ホームページあるいは、学生募集要項2026年4月入学生用をご参照ください。